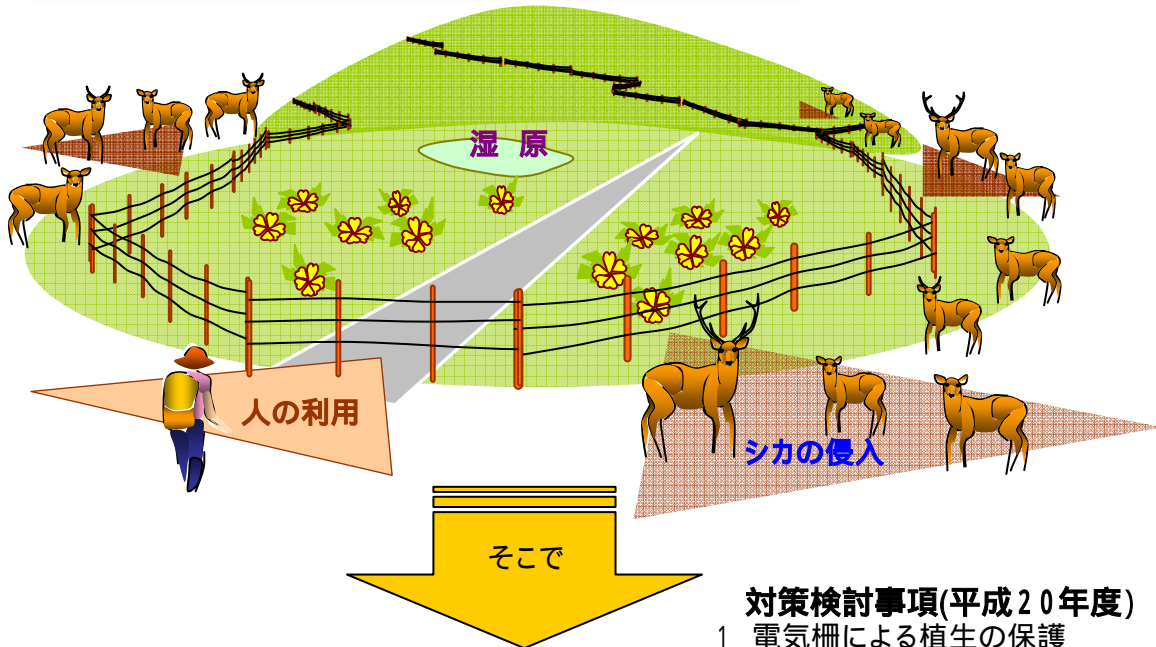


ニホンジカによる植生被害対策のイメージ

自然保護課

霧ヶ峰の全てを柵で囲うことはできない。

シカから守るべき自然の範囲が特定されていない。
シカがどこから侵入してくるかわからない。
風致・景観のうえからも支障が大きい。

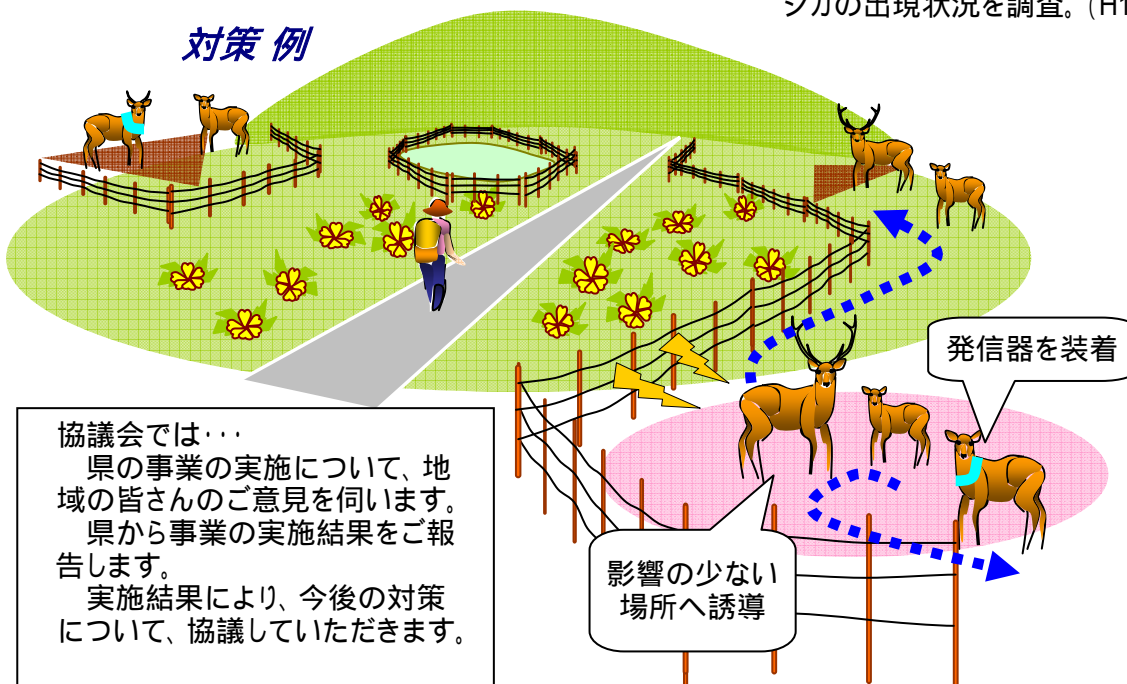


シカの行動を追跡しながら、柵の設置によるシカの行動の変化を検証する。
守るべき場所を特定してその範囲を効果的に防護できるような配置を考える。
人の利用や、景観上もできるだけ影響が少なくなるように配置を考える。

対策検討事項(平成20年度)

- 1 電気柵による植生の保護
- 2 シカの出現状況や被害状況などの調査により効果的な柵の配置等の検証
 - ・ シカに発信器を装着して、日中と夜間の行動を追跡
 - ・ 霧ヶ峰全体で食害の発生状況を調査 (H19から継続)
 - ・ 夜間のスポットライトセンサスによって、シカの出現状況を調査。(H16から継続)

対策例



協議会では・・・
県の事業の実施について、地域の皆様のご意見を伺います。
県から事業の実施結果をご報告します。
実施結果により、今後の対策について、協議していただきます。